

各 位

会社名 古河スカイ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 加藤 仁
 (コード番号：5741 東証一部)
 問合せ先 取締役 宇多田 元
 (TEL：03-5295-3810)
 (URL：http://www.furukawa-sky.co.jp)

<2006～2009 年度中期連結経営計画の概要>

当社は、2006 年度（2007 年 3 月期）から 2009 年度（2010 年 3 月期）までの中期連結経営計画を策定しましたので、その概要をお知らせいたします。

■中期連結経営計画の概要■
 —古河スカイ株式会社 アクションプラン—

経営ビジョン

「社会と地球環境に優しいアルミニウムを通じ、お客様に満足いただける製品・サービスの開発・提供により社会に貢献し、リーディングカンパニーを目指す」

目標とする企業像

—ステークホルダーに存在感のある会社—

- 株 主・・・透明、公正で、価値のある会社
- 顧 客・・・信頼と満足を得られる会社
- 従業員・・・安心して働け、働いてよかったと思える会社
- 地 域・・・環境に優しく、地域と共栄できる会社

成長の方向性

「強い収益体制の確立」

- 板事業 3 工場（福井工場、深谷工場、日光工場）の強みを活かした集約生産体制で、世界に通じる品質・コストの実現
- 海外 3 工場（インドネシア、中国、ベトナム）の 2006 年度同時立ち上げによる新設・増強体制の整備
- マーケットのセグメント化と成長製品の絞り込みにより、総合圧延メーカーとしてのさらなる戦略的営業展開の徹底

2009 年度の目標値

- 営業利益率 10%以上（単体）、D/E レシオ 1.0 以下（連結）を目標
- 数値目標
 - 売上高：

2005 年度見込	1,800 億円	→	2009 年度目標	2,458 億円
連結	2,098 億円			2,122 億円
 - 営業利益：

2005 年度見込	125 億円	→	2009 年度目標	216 億円
連結	137 億円			245 億円
 - 連結 D/E レシオ

2005 年度見込	1.39	→	2009 年度目標	1.0 以下
	有利子負債 850 億円			有利子負債 650 億円 程度

(アルミ地金価格 250 円/kg を想定)

1.成長の方向性について

- (1) 板事業 3 工場（福井工場、深谷工場、日光工場）の強みを活かした集約生産体制で、世界に通じる品質・コストの実現として
- ①福井工場・・・世界最大級の圧延機を活かした大量・大型製品の集中生産
 - ②深谷工場・・・中規模ロット多品種を生産
 - ③日光工場・・・少量多品種／高付加価値特殊品を生産
- (2) 海外 3 工場（インドネシア、中国、ベトナム）の 2006 年度同時立ち上げによる新設・増強体制の整備として
- ①自動車熱交換器用押出材・・・アジア中心の需要増に対応
 - ②高品質精密鋳物コンプレッサーホイール・・・世界シェアナンバー1を目指す
- (3) マーケットのセグメント化と成長製品の絞り込みにより、総合圧延メーカーとしてのさらなる戦略的営業展開の徹底として
- ① I T、印刷板、産業用箔などの産業分野への展開
 - ②自動車、L N G、航空機などの輸送分野への展開
 - ③缶などの生活関連分野への展開

2.2009 年度の目標値として―「強い収益体制の確立」

成長の方向性を実現することにより、強い収益体制を確立し、2009 年度には営業利益率 10%以上（単体）を達成することを目標に以下の実現を目指します。

- ①板生産集約や増産・合理化などを設備投資の実施により実現
- ②上記以外のコストダウンの実現
- ③海外子会社を含むグループ会社の利益成長の実現

（ご参考として）

（単位：億円）

		2005 年度 (2006 年 3 月期) 見込	2009 年度 (2010 年 3 月期) 目標	増減
売上高	連結	2,098	2,458	+360
	単体 (数量)	1,800 (429 千トン)	2,122 (478 千トン)	+322 (+49 千トン)
営業利益	連結	137	245	+108
	単体 (営業利益率)	125 (6.9%)	216 (10.2%)	+ 91 (+3.2%)

3.D/E レシオ 1.0 倍（連結）目標の達成について

目標達成のため、フリーキャッシュフローを活用し、連結有利子負債の残高を 2005 年度末予想 850 億円から 2009 年度末 650 億円程度へ 200 億円の削減を目指します。

（ご参考として）

（単位：億円）

		2005 年度 (2006 年 3 月期) 見込	2009 年度 (2010 年 3 月期) 目標	増減
D/E レシオ	連結	1.39 倍	1.0 倍以下	—
	(有利子負債)	(850)	(650 程度)	(△200)

4.設備投資計画について

集約・合理化・増産、更新・品質改善、環境、情報化その他の設備投資として、投資効果の早期実現を図るため、2006 年度に 185 億円、2007 年度から 2009 年度までは 100 億円から 120 億円程度の実施を計画（単体）いたします。

以 上